

# 戦国大名朝倉氏ゆかりの地マップ

「乗谷に「京の都以上」ともいわれた城下町を築いた朝倉氏。戦国の歴史と朝倉氏の栄枯盛衰を感じるスポットをご紹介します。

ゆかりの地をめぐって、戦国ロマンを体感!



## 4代朝倉孝景寄進の「天之図」が観られる

### 7 [瀧谷寺] 坂井市三国町滝谷



南北朝時代の1375年、睿憲上人によって開山。朝倉氏をはじめ、柴田勝家、福井藩主松平氏など歴代領主の祈願所として篤い帰依と保護を受けた。国指定重要文化財の鎮守堂、国の名勝指定の庭園が見られるほか、多数の貴重な文化財を収蔵し、一部展示もしている。寺宝の一つである国指定重要文化財「天之図(星図)」は、4代孝景から寄進されたもの。天文星図を描いたもので、「周天三百六十五度四分之二十八舎図丹元子歩天歌」と標題がある。「天之図」は常時観ることができ、  
●問合先:瀧谷寺 TEL.0776-82-0216

## 一乗谷城下町の表玄関

### 8 [大手道] 福井市東大味町



大手道は、朝倉氏の一乗谷城下町の表玄関口として大繁栄していた一帯。京都から多くの公家や僧侶、文化人たちがここを通り、一乗谷を訪れたと思われる。現在は、切り通しや石畳道の跡がわずかに残っている。大手道を下ると朝倉氏の時代に整備された「朝倉街道」へとつづく。「越落拾遺録」に記された丸岡(福井県坂井市丸岡町)から鯖波(福井県南条郡南越前町)に至る道。北陸道からの外敵の侵入に備えて軍用道として整備され、北陸道のバイパス道路ともなっている。後世になって「朝倉街道」と呼ばれるようになった。  
●問合先:上文殊公民館 TEL.0776-41-0516

## 明智光秀と娘たまのゆかりの地

### 9 [明智神社] 福井市東大味町



明智光秀は、織田信長に仕える前、朝倉氏の客分として居を構えたこの地を一向一揆の戦禍から守ったといわれる。「明智屋敷跡」の住人たちは、その恩義を忘れず光秀を「あけつあま」と呼び、木彫りの光秀像を極秘に守り続けてきた。明治19年の「明智神社」建立以来、6月13日の命日はに祭礼を行ってきた。光秀の娘・たま(細川ガラシャ)の生誕地と言われている。  
●問合先:上文殊公民館 TEL.0776-41-0516

## 朝倉氏と肩を並べるほどの勢力だった宗教都市

### 10 [白山平泉寺旧境内] 勝山市平泉寺町



越前における白山信仰の中心。1573年、織田軍の猛攻撃を受け洞雲寺(大野市清滝)へ逃れた義景は、同盟関係にあった平泉寺(勇猛な僧兵集団であった)に助けを求めた。しかし、平泉寺はすでに信長と内通しており、朝倉景鏡とともに義景を襲う。義景を裏切り、その首を信長に捧げた景鏡だったが、義景と同盟関係にあった一向一揆の攻撃対象となり、平泉寺にかくまわれる。1574年4月、平泉寺勢と景鏡は、一向一揆が立て籠もった勝山市北部の村岡山中で激しい戦いの末に敗れた。その村岡山は、住人達から「勝上山」と呼ばれ、現在の勝山の地名につながったとされる。なお、平泉寺には景鏡の館跡と伝えられる場所や供養塔がある。  
●問合先:写真提供:勝山市観光政策課 TEL:0779-88-8117

## 5代義景最期の地

### 11 [朝倉義景墓所] 大野市泉町



ここに、義景の墓と、ともに自刃した近臣・鳥居景近、高橋景信の墓があり、また、信長の命で丹羽長秀に殺害された息子の愛玉丸、義景の母の光徳院との共同の墓も立っている。墓所一帯は「義景清水」と呼ばれる湧き水地。隣接の「義景公園」の水琴窟では、琴の音に似た美しい反響音を楽しむ。  
●問合先:写真提供:大野市観光振興課 TEL:0779-66-1111(内線162)

## 最澄が「一乗院」を開いたことに始まる

### 3 [西山光照寺] 福井市花月1丁目



創建は平安時代と伝えられ、寺伝によると、最澄が一乗谷に一乗院を開いたことに始まるが、戦国時代、朝倉氏の庇護を受け西山光照寺と改称。1459年和田の合戦にて、初代孝景(英林)は亡き妻の父将景を殺害し、一族内での主導権を掌握。将景の法名が「光照郎用」と呼ばれたことから、将景の外孫に当たる氏景が、それ以降の当主が将景の菩提を弔うために再興した寺だとみられている。一乗谷で最大の寺院だったといわれているが、朝倉氏滅亡後1611年に現在地に再建。一乗谷(特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡の西山光照寺跡)には約40体の石仏が並び、中には3m近い不動明王も残っている。  
●問合先:西山光照寺 TEL.0776-24-3869

## 軍奉行・朝倉宗滴ゆかりの地

### 6 [本郷竜興寺跡] 福井市八幡町

1573年、最後の当主義景の姫たちの乳母・野尻治郎左衛門の母が、姫たちを信長の軍勢からかくまったところ。標高220mの山頂にあり、礎石らしい石塊や石不動のほか、朝倉景頼の宝篋印塔が残っている。(現在は山中に静かに眠っている。)遇っては、朝倉景景が出家し(「宗滴沙弥」を名乗る)入寺した寺跡。宗滴(教景)の妻は、1503年に「景豊の乱」を起こした敦賀城主朝倉景景の妹で、この謀反を前に、義景景景から共謀の誘いを受けた宗滴は、苦悶の末貞景に密告。これにより乱は鎮圧されたといわれている。  
●問合先:本郷公民館 TEL.0776-83-0582

## 朝倉氏の侵入を幾度も防いだ堅城

### 14 [国吉城跡] 美浜町佐柿



若狭武田氏の家臣・粟屋勝久が、天然の要害となる標高198mの山頂から尾根にそって築いた城。1563年、朝倉軍がこの地に侵入するが、粟屋氏をはじめこの地の国侍や住人たちは、国吉城に籠城し激しく抵抗。その間6年。朝倉氏は、若狭守護武田元明(京極龍子(の)の)を保護するため、武田氏を一乗谷に住ませ、粟屋勝久らの抑え込みで奮闘した。粟屋氏はその後、越前・朝倉攻めを画策する信長を国吉城に迎え入れ、朝倉氏滅亡に手を貸すことになる。現在は、山麓の徳賞寺に粟屋勝久の墓といわれる五輪塔が残っている。(写真は、国吉城跡の発掘された石垣)  
●問合先:写真提供:若狭国吉城歴史資料館 TEL.0770-32-0050

## 当代随一の医学者・谷野一栢が眠る

### 2 [安養寺] 福井市足羽1丁目



初代孝景が1473年に一乗谷に建立した浄土宗の寺。一乗谷の寺院の中でも格式の高い寺院であり、5代義景は寺の隣に足利義昭(後の室町幕府15代将軍)の御所を造ったが、その後まもなく義昭は信長を頼って一乗谷を去る。1575年に北庄へ移築。ここには、4代孝景の命により一乗谷城下にて国内2番目となる医書出版を果たした当代随一の医学者・谷野一栢が静かに眠っている。その後を継いだ三崎家の墓所でもある。(写真は医学者・谷野一栢墓所)  
●問合先:安養寺 TEL.0776-36-0378

## 朝倉氏発展の礎となった

### 5 [黒丸城跡] 福井市黒丸町



1372年、越前守護羅波高経に従い、越前に入国した朝倉氏。「黒丸城」の城主斯波氏を追放した祖・朝倉広景は、この地にて後の発展の礎を築いたとみられている。九頭竜川と日野川が合流する水上交通の要衝の地。現在は顕彰碑が立っている。また、日野川を4kmほど遡った安居の地には、1343年、広景が創建した曹洞宗宏智派大治山弘祥寺の跡がある。  
●問合先:西藤島公民館 TEL.0776-22-0040

## 織田信長と朝倉義景の激戦地

### 13 [刀根坂] 敦賀市刀根坂



1572年、浅井氏救援のため北近江に出陣した義景は、1573年、信長軍に追撃され、越前へと国境・刀根坂で壊滅的な打撃を被る。この時、客分として朝倉軍に従事していた、マムシの道三(斎藤道三)の孫・龍興(26歳)が命を落とした。(写真は、刀根坂の玄蕃尾城跡。「賤ヶ岳の戦い」の際、柴田勝家が本陣を構えたところとして有名である。)  
●問合先:写真提供:(社)敦賀観光協会 TEL:0770-22-8167

## 朝倉家とゆかりの深い浅井家・三姉妹の初ゆかりの地

### 16 [常高寺] 小浜市小浜浅間



朝倉家とゆかりの深い浅井家の三姉妹の二女・初の祈願により建立された寺。1633年、江戸で亡くなった初(常高院)の墓所もある。  
●問合先:写真提供:若狭おばま観光協会 TEL:0770-53-1111(内線267)

## 唯一現存する朝倉氏の菩提寺

### 1 [心月寺] 福井市足羽1丁目



一乗谷に移った初代孝景(英林)は、その祖父教景の菩提所として「心月寺」を建立。「心月」は教景の法名で、今も一乗谷の福井市西新町と前波町には「心月寺跡」と称する一帯がある。朝倉氏が越前入国後に創建した多くの氏寺・菩提寺の中で、現存する唯一の寺である。朝倉氏滅亡後、一時、鯖江市に移る。現在地に移ったのは、1603年、結城秀康の頃である。所蔵する初代孝景、5代義景の画像は今に伝えられている。(※福井市が保管しており、当寺院では見ることができません。)  
●問合先:心月寺 TEL.0776-36-2514

## 朝倉氏代々鎮守の観音像を伝える

### 4 [鎮徳寺] 福井市日之出1丁目

周辺は今も「観音町」と呼ばれ、この名称は、一乗谷城の本丸・千重敷隣の観音屋敷にあった観音像がこの寺に移されたことに由来するといわれる。朝倉氏が代々鎮守としていたこの観音像は、寺伝によれば、「一乗引越太夫」と呼ばれる仏像の中に納められていた。柴田勝家滅亡後の北庄城城主丹羽長秀が、城の鬼門鎮守としてこの寺院に移し祀ったとされている。当時の観音像は焼失し、現存していないが、寺院では代わりにの像を置き今も大切に保管している。  
●問合先:鎮徳寺 TEL.0776-23-6354

## 越前に攻め入る織田信長ゆかりの地

### 12 [手筒山城・金ヶ崎城跡] 敦賀市手筒・金ヶ崎町



1570年、信長により攻め落とされた城。信長は、国吉城を拠点に、足壇城、手筒山城を落とし、翌日には金ヶ崎城を開城させた。いよいよ朝倉氏の本拠地・一乗谷へという矢先、義弟の浅井長政の謀反により急速撤退。長政の妻・市が兄信長に小豆袋を送り、夫の謀反・挟み撃ちの危険を知らせたと伝えられている。信長は命からがら朽木越えで京都に逃げ帰り、これが有名な「金ヶ崎の退き口」と言われる退却戦である。(写真は、金ヶ崎宮。金ヶ崎城跡などへとつづく。)  
●問合先:写真提供:(社)敦賀観光協会 TEL:0770-22-8167

## 朝倉義景の生母のお家元・若狭武田氏の居城

### 15 [後瀬山城跡] 小浜市伏原・大宮・男山・鹿島・浅間



若狭武田氏の居城。なお若狭武田氏9代目の武田元明には、京極高次の妹(姉という説もある)・龍子(後の豊臣秀吉の側室「松の丸」)が嫁いだ。また、朝倉義景の生母・光徳院は、若狭武田家のお出でもある。  
●問合先:写真提供:若狭おばま観光協会 TEL:0770-53-1111(内線267)

※戦国大名朝倉氏の歴史に関するお問合せは、  
県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 TEL 0776-41-2301 まで  
また、若狭地区の歴史等については、  
県立若狭歴史民俗資料館 TEL 0770-56-0525 まで

※所有者の方のご都合により見学できない場合もあります。また、見学用に整備されていないところもありますので、ご了承ください。  
※地図中の●印は、主な観光地、観光施設などです。

